

2025 支援の輪 第3回目 能登半島七尾市災害支援活動と七尾城

組織部 下窪義文

- ・活動日 2025 年9月13日(土)
 - ・支援先 七尾市災害ボランティアセンター
 - ・参加者 佐藤俊明(雑木の会)、大見則親(OAR)、高桑昭夫(きたろう)、下窪義文(つりばし)4名
- 今回能登半島七尾市で支援活動を行いました。
前日21時に連盟事務所を車で出発。名神、北陸道、のと里山海道から七尾市に入ります。

9月13日(土)

JR 和倉温泉駅で仮眠、朝食してから民間ボランティアセンター おらっちゃん七尾に入りました。

石崎保育園の中にあり、昨年8月に立ち上った NPO でスタッフは各地から来ています。作業支援とソフト支援があり、今回も作業支援を担当することになります。参加10班に分けられ、支援依頼者からの作業をマッチングされます。

私達は6班14名でトラック2台とワゴン車で現地に向かいます。車で30分の個人宅で公費解体前の家財道具の分別と処分場への運搬です。

ごみの分別ハンドブックが渡され、「燃えるゴミ」は透明のビニール袋45L に入れます。「不燃ゴミ」はコンテナ箱に分別します。リサイクル家電製品(TV エアコン、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫などは郵便局でリサイクル券購入が必要で搬出できないため留めておくこととなります。

単純な作業でも手際よく必要とされます。1軒目が早く終わり、2件目の応援に行きます。室内の食器類の分別で16時までには終了しました。

作業が終わりボランティアセンターから徒歩10分の銭湯弁天湯に向かいお風呂で疲れが取れました。車で15分位の和倉温泉街に入るとほとんどの老舗ホテルが営業していません。有名な加賀屋も地震の影響は大きく閉まったままになっています。中心部は閑散として地震時と同じ状態になっています。外食を予定していたが予約で満席。スーパーどんたくで夕食の買出して宿泊先の石崎保育園に戻ります。簡易ベッド室とは別の懇談室で夕食しながら他のボランティアとも懇談できました。神奈川、木津市、広島、西宮市、鹿児島県の遠くからの個人の常連さんが多いです。20代～50代

9月14日(日) 石崎保育園で朝食して支援活動が始まる前に施設を出発。七尾城跡に向かいます。七尾市街南東に位置し車で行くことができます。日本百名城の山城で七つの尾根の集まりで七尾城と名付けられています。野良積みの石垣が特徴で、天守跡から七尾市街、和倉温泉街、能登島が一望できます。2の丸、3の丸後を一周して駐車場に戻ると地元の七尾城祭りの関係者がチラシを配っていました。観光の人も多く来ています。能登大橋を渡り能登島に入ると地震の影響があります。「のと島水族館」は地盤沈下もありましたがイルカショーが行われていました。

【参加者の感想】

■高桑昭夫(きたろう HC)

第一回の輪島市は、道路が今も上下にうねっている、輪島港は海底の隆起で使用できない。第二回の珠洲市では、地震と豪雨被害により崖崩れによる道路のトンネル崩壊や埋没、千枚棚田での収穫ゼロ、海底の沈下で埠頭を掘り下げたの応急処置で使用。今回の第三

回は七尾市で和倉温泉の日本有数の旅館だった加賀屋をはじめ多くの大型旅館が営業中止。元の賑わいに戻すのは想像できないほどの時間と費用が掛かるのは素人の私でも目の当たりにして実感する。

この3回の活動内容は個人宅の廃棄物処理です。1年半経ったタイミングでのこの作業はいかに遅々として復興はおろか、復旧すらはかどっていない状況が理解できます。しかし、ボランティア活動で見たものは、半島の西部、北部は海底の隆起、東部では沈下と素人考えて半島をねじり曲げた現象が起きたような感じです。つまり、想像を絶する出来事が起こったことに改めて感じ、自然の怖さを実感しました。それと同時に同じ日本には、南海トラフだけでなく何処でもあり得る事象・災害と思いました。

30年前に阪神淡路大震災を経験した私たちも、能登半島で被災された方々に同じ気持ちで寄り添うのが先ずは大事と感じる『支援の輪』

■佐藤俊明(雑木の会)

七尾市 6月から3回目の能登半島支援活動、今回は七尾市能登半島南部域となる七尾市は前回までの北部域に比べそこを生活拠点にする人々が多い分、家屋建物も多い、前々回、前回の北部域に比べれば一見被災程度が少ないかに見えたのは、現地到着が早朝未だ明けやらぬせいだった、明ければやはり被災家屋、施設、土地、道路の損壊、深い傷跡はそこかしこに、今回のボランティアセンターとされていたのは休園中の幼稚園建物とその敷地活動拠点とされた幼稚園には早朝からボランティアが集まってくる、福島県、千葉県、鹿児島からも、伺えば何回もこの地に足を運んでいると、全く頭が下がる思いになる

今日は公費取り壊し前の片付け、処分のため運ぶものになんとも空しさを覚える私たちが、それどころではないはずなのに作業後の私たちに手を合わせて笑顔で感謝を述べられる依頼者さん、ひとりではほんの些細なことしかできない、それでも数が集まれば力にもなりうる、翌日、能登島のとある船泊の沈下状況を視察する、本堂が工事用シートにすっぽり覆われたお寺、立派な鐘撞堂とその横に掲げられた格言「じっくり考えろ、しかし行動するときが来たら、考えるのをやめて進め」かつて

■大見則親(OAR)

能登支援もこれで3回目、北端の輪島市、東端の珠洲市に続いて今回は南端の七尾市です。支援内容はほぼ同じで、家を取り壊すので処分する家財道具を、家の中からの搬出し分別、そして集積場への持ち込みと言うモノで、どの地区でも同じ作業内容でした。

どのお家でも、家財には思い出があり、子どもさんやお孫さんの写真やメッセージ、思い出のモノなど泣く泣く処分されていました。辛い思いと必死に前を向いて行こうと言う気持ちを感じました。1年半経ってもまだ支援を待っている方がいらっしゃるという事を、大阪労山の仲間にも伝えたいと思います。

■下窪義文(つりばし)

災害の現場に出向くことで、時間が経っても支援活動の熱意が伝わってきます。

私たちにできることは何だろう、地元の人声を聴くこと。何かできないか。誰もができることが沢山あることに気づくことができました。

地元からの支援依頼は200件あり、来年の3月まではボランティア活動を続けるそうです。

高速道路無料化は12月31日まで延長されました。機会があれば雪の能登地方の応援も考えてみたいです。

